

幾世代にわたり

因縁を保つ村と町



6月20日(祝)、ゆめりあで戦没者・開拓物故功労者・消防殉職者追悼式と開町122年記念式典が開催され、242人が参列しました。

式典には、奈良県から稲山一八副知事、十津川村の更谷慈禮村長や中南太一村議会議長なども参列し、厳粛な雰囲気の中で執り行われました。

# 開町122年記念式典

## 戦没者・開拓物故功労者・消防殉職者追悼式

功労表彰受彰者

自治振興 (敬称略)  
井口 春男

感謝状受賞者

永住表彰 (敬称略)  
三浦 貞治 大島うめ子  
島宗 清藏 小林 孝一  
岩崎 光雄 松下智恵子  
前川 ヨシ 大津 綾子  
芳賀 克巳 五十嵐アイ  
岡 須美 野々宮スズ子  
古屋ハリエ 野尻 勝房  
渡邊 正義 佐々木やゑ子  
久保田幸恵 政所田鶴子  
平田 君子 川村 清一  
嶋谷 千代 山口トモ子  
葛西ヨシイ

高額寄付者 (敬称略)  
津辻 昌子 安藤 君明  
西尾 光子

開町記念式典の中で読み上げられている『告諭』。これは、明治22年の大水害で北海道へ移住することになった十津川郷の人々へ、当時の奈良県知事税所篤たかしが送った激励文です。原文は少し難しい言葉で書かれていますので、現代語訳をご紹介します。



式典を締めくくる万歳三唱



功労表彰受彰者・感謝状受賞者と植田町長



①式辞を述べる植田町長②開村記念碑への献花③祝辞を述べる更谷村長④稲山副知事⑤開村記念碑に刻まれた碑文を読誦する熊田教育長⑥献花を捧げる村職員(中央の2人)、左後方は向井弘昌十津川高校校長⑦告諭を奉読する佐川副町長



吉野郡十津川郷北海道移住者へ

このたび、あなたたちが先祖代々守ってきた墓があるこの地を去って、新たな生活を切り拓くために北海道へ移住することとなったのは、今年8月の未曾有の豪雨で発生した災害で一夜にして家、畑などの財産を失ったためで、その心中をお察しすると、何とも痛ましく堪えられないものがあります。

そうではありますが、被害状況を確認して将来のことを考えると、川と山とが入れ替わったような被害のあったこの土地のあり様では、農地も狭く、今後、ここで生活を再起することは非常に難しく、たとえ何十年も苦勞して復興を行っても到底充分な発達を見込むことは、今の段階で期待することができません。

しかしながら、北海道は土地が広く、住民は多くはありませんが、農産が見込め、水産資源が豊富であり、加えて、今後鉄道敷設が進む地域です。このように今後、発達が見込める土地柄です。で瘠土を後にし、新天地北海道の沃野を耕すことは本当に最善の策であり、他にこれ以上の案はないと思っています。

さらに剛毅で忍耐に長けるあなたたちですからその辛さや幾多の苦難に耐え、乗り越えることができるで

しょう。そして、今の苦しみから脱して幸福を得ることができるのは疑いのないところです。

そもそもあなたたちは、昔から今にいたるまで勤王で名高い十津川郷士です。また、北海道はわが国の北方警備の要所です。今、その地へ移住をするあなたたちが一団となって開拓を行うことは、自分たちの生活のためだけでなく、大いに国家の利益になることです。実にこの志は、行動は大変すばらしいことです。

そのようなことから今回、天皇陛下の特旨により就産資金として2000円もの恩賜をいただいたのです。天皇陛下の手厚い保護をいただけることに、感謝申し上げる次第です。

移住後は、今回の移住の経緯を長く忘れることなく、職を熱心に勤め、業に精を出して励み、あなた方が十津川郷士の名声を下げることなく、また、国家を守る武士のごとく尽くして、政府の期待に応えていただくことを願っています。

あなたたちの今後、困難があることや努力が必要なことは十分理解していますが、移住出發の別れであるが故に特にこれを申し上げます。

明治22年10月

奈良縣知事 税所 篤  
從三位勲二等子爵

